

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501373		
法人名	医療法人愛全会		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	〒005-0824 札幌市南区南沢4条1丁目7番10号 (電話) 011-573-3700		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】 (平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年12月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27人	常勤	21人, 非常勤 6人, 常勤換算 22.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	16,000~24,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,433 円		

(4) 利用者の概要 (12 月 1日現在)

利用者人数	27名	男性	8名	女性	19名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	9名	要介護4	8名		
要介護5	2名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.18歳	最低	78歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 愛全会 愛全病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成13年に設立し、設置法人は医療法人であるため法人内の医療機関と医療連携が図られており、利用者及び家族の安心に繋がっている。また、近隣の大学で開催されるラベンダー祭りへの参加や、高校への本の提供、コンサートへの参加など、地域の一員として交流することに努めている。法人全体で研修に取り組み、質の高いケアの実践を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、取り組みを期待したい項目であった「同業者との交流を通じた向上」及び「災害対策」については、改善計画シートを作成し、優先順位、改善目標と改善に向けた計画内容、期間を設定し改善に向け取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	質の向上を目指して、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、日々のケアの振り返りの機会として活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議の討議の結果、近隣小学校及び町内会の資源回収日にあわせて事業所も参加することが可能となった。さらに、土砂災害時における避難マップの作成及び事業所への掲示、災害時の連絡網の作成を実現した。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の来訪時や運営推進会議での意見を検討するとともに、年1回、グループホーム事業全体で家族アンケートを実施し、家族の意見の反映に努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	音楽療法や手芸教室、生け花教室、ビューティーボランティアなど、多数の地域住民のボランティアを受け入れている。また、事業所でも、流しそうめん、青空音楽会などの行事を主催し、地域との連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着を重視して、「地域の愛に育まれながら安らぎとぬくもりのある生活が送れるよう」支援するという事業所独自の理念を掲げている。また、ユニット毎にケアの目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	行事の際や毎朝のカンファレンスで、理念の共有化について話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	音楽療法や手芸教室、生け花教室、ビューティーボランティアなど、多数の地域住民のボランティアを受け入れている。また、事業所では流しそうめん、青空音楽会などの行事を主催し、地域との連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、評価で課題とされていた項目であった「同業者との交流を通じた向上」及び「災害対策」については、改善計画シートを作成し、優先順位、改善目標と目標の実現に向けた計画内容、期間を設定し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の討議の結果、近隣小学校及び町内会の資源回収に参加するようになった。さらに、土砂災害時における避難マップの作成及び施設への掲示、災害時の連絡網の作成を実現した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の管理者連絡会議に参加したり、市の依頼により認知症介護実践研修の実習受け入れを行っている。また、地域包括支援センターとの連携も密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	すずむし便りやありんこメールなどのホーム便りを家族に送付している。また、月初めには預り金明細書を家族に送付している。家族来訪時には、利用者の日常の様子をこまめに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議での意見を検討するとともに、年1回、グループホーム全体で家族アンケートを実施し、家族の意見の反映に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入った場合は、全利用者に紹介し、早期に馴染みの関係ができるように全職員でフォローしている。また、家族には職員の顔写真入りのホーム便りを送付している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内外の研修に計画的に参加している。また、委員会を組織し、毎月、事例検討や研修企画を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区管理者連絡会議等で管理者同士の交流を図り、事業所の見学や情報の交換を行っている。職員についても施設見学や研修会等を行い交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が使っていたものを持ち込んだり、事前に事業所の見学を行うなど、家族等と相談しながら自然な雰囲気でのサービスの利用を開始できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に料理の下ごしらえの方法を学んだり、昔話を聞くなど、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や日常の会話から思いを汲み取り、さらに、家族から情報を得て、意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で話し合い、介護計画を作成している。また、介護計画は、家族等に同意をもらうようにしている。利用者に変化があった時は、その都度カンファレンスを開いて検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が見られない時でも3ヶ月毎に計画を見直している。利用者の状態が急変した時はその都度、計画を見直し変更を行っている。見直し後は、家族等に説明を行い、要望を聞くなどしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問診療を2週間に1回受けている訪問看護ステーションから、看護師が週1回来所し医療連携体制を構築している。医師とは24時間電話連絡可能であり、緊急時に病院を探してくれるなど、柔軟な対応が可能な体制となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人と家族で相談し、かかりつけ医療機関を決めている。ほとんどの利用者は訪問診療を利用しており、24時間医師との連絡が可能である。かかりつけ医への受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関わる指針」を作成しており、本人や家族に提示し説明をしている。さらに、本人、家族、主治医、職員等で話し合い、方針を全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドや羞恥心に配慮し、穏やかな言葉がけを行っている。また、個人情報の保管は事務所の決まった場所に保管し、適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に合せて生活するのではなく、本人のペースで日々を暮らせるように支援している。さらに、起床時間や食事は一人ひとりの体調を考慮して支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲で、食事の準備や片付けの手伝い、収穫した野菜の下準備等を行っている。利用者が一人ひとりの力を活かすことで、食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日声かけを行い、利用者の入浴の希望を確認している。入浴を拒む場合は、無理せず、気分の良い時に声かけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひげそり、洗濯物を干す、ぬり絵をするなどの支援している。また、短歌を新聞に投稿している利用者もあり、一人ひとりの生活歴や力を活かした支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、天気の良い日には、職員が同行し、散歩やドライブに行っている。また、近隣のコンビニエンスストアへ買物にも行くなどの支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の玄関はオートロックになっているが、鍵をかけることの弊害を理解しておりユニット毎の玄関には日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、避難訓練を実施している。また、火災通報システムを設置している。さらに、町内会で年4回ある救急救命講習に参加し、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の献立に基づき、契約業者が食材配送をしている。水分量、食事の摂取量は細かく記録し、必要量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔感を保ち、手芸教室で作成した作品や生け花を飾っている。また、季節によってクリスマス用の飾りを飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、衣類を居室に置いている。また、本人や家族の写真も居室に飾っており、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。